

SAKURA SPECTACLE

閃け。輝け。咲き誇れ。

2016年 チーム強化方針

大阪サッカークラブ株式会社



2015年 J2リーグ順位表

順位	チーム名	勝点	試合数	勝数	引分数	敗数	得点	失点	得失点差
1	大宮アルディージャ	86	42	26	8	8	72	37	35
2	ジュビロ磐田	82	42	24	10	8	72	43	29
3	アビスパ福岡	82	42	24	10	8	63	37	26
4	セレッソ大阪	67	42	18	13	11	57	40	17
5	愛媛FC	65	42	19	8	15	47	39	8
6	V・ファーレン長崎	60	42	15	15	12	42	33	9
7	ギラヴァンツ北九州	59	42	18	5	19	59	58	1
8	東京ヴェルディ	58	42	16	10	16	43	41	2
9	ジェフユナイテッド千葉	57	42	15	12	15	50	45	5
10	コンサドーレ札幌	57	42	14	15	13	47	43	4
11	ファジアーノ岡山	54	42	12	18	12	40	35	5
12	ツエーゲン金沢	54	42	12	18	12	46	43	3
13	ロアッソ熊本	53	42	13	14	15	42	45	-3
14	徳島ヴォルティス	53	42	13	14	15	35	44	-9
15	横浜FC	52	42	13	13	16	33	58	-25
16	カマタマーレ讃岐	51	42	12	15	15	30	33	-3
17	京都サンガF.C.	50	42	12	14	16	45	51	-6
18	ザスパクサツ群馬	48	42	13	9	20	34	56	-22
19	水戸ホーリーホック	46	42	10	16	16	40	47	-7
20	FC岐阜	43	42	12	7	23	37	71	-34
21	大分トリニータ	38	42	8	14	20	41	51	-10
22	栃木SC	35	42	7	14	21	39	64	-25

得点57はリーグ5位
失点40はリーグ7位

2016年に向けた課題解決

□ 選手サポート体制の強化

2015年の戦況分析から、全失点の35%が76分以降であり、戦術面の徹底およびフィジカル強化を図るため、オリンピック日本代表やJリーグでの経験と実績があるフィジカルコーチ2名を招聘。また、昨シーズンは怪我人や怪我の再発が多く、今シーズンはトレーナーを4人体制とした。(PT1名含む。)

2016年に向けた課題解決

□ 得点力不足の解消

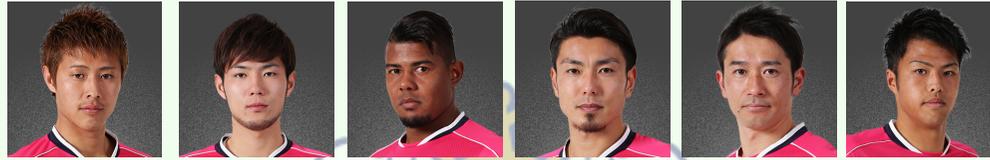
昨シーズンの総得点は、57点でリーグ5位。中国リーグで実績あるブラジル人選手2名(ブルーノ・リカルド)の補強し、大学新卒のユニバー代表の澤上(大阪体育大)を獲得した。さらには、U-18から岸本の昇格の他、柿谷、杉本の復帰に加え、残留の玉田、田代らによるFWの厳しいポジション争いによる得点力不足の解消を図る。

2016年に向けた課題解決

□ 競争による個人のレベルアップ

山口等の移籍に伴い、ソウザ(ブラジル人選手)や山村(鹿島)を補強し、すべてのポジションで競争による個人能力の向上とチーム力のアップを図る。

セレッソ大阪トップチーム



柿谷 曜一朗

杉本 健勇

リカルド・ سانتス

田代 有三

玉田 圭司

澤上 竜二



ブルーノ・メネゲウ



丸岡 満



関口 訓充



清原 翔平



丸橋 祐介



扇原 貴宏



ソウザ



山村 和也



秋山 大地



木本 恭生



橋本 英郎



田中 裕介



棕原 健太



茂庭 照幸



藤本 康太



小谷 祐喜



中澤 聡太



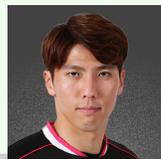
山下 達也



松田 陸



武田 博行



キム ジンヒョン



丹野 研太



北野 貴之



酒本 憲幸

セレッソ大阪U-23



阪本 将基



温井 駿斗



冲野 将基



米澤 令衣



岸本 武流



西本 雅崇



小暮 大器



池田 樹雷人

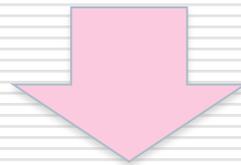


庄司 朋乃也



Cerezo
OSAKA

「Cerezo Style」の確立



U23との連携と選手強化

攻守に主導権を握る攻撃サッカー

「チームと勝利の為」

- 競争と結束
- 自覚と自立